

## 第5回公共施設再編計画策定検討委員会 議事要旨

日時 : 2017年5月16日(火) 10時~12時

場所 : 町田市役所 市民協働おうえんルーム

出席者: 委員長 市川宏雄氏  
副委員長 山重慎二氏  
委員 神山和美氏(欠席)  
前島正光氏  
岩崎俊男氏  
大塚信彰氏(欠席)  
小林祐士氏  
通地康弘氏(欠席)  
大倉博志氏  
増山正子氏  
長谷川隆氏

開会

委員長 開催。意見募集等

事務局:

3名欠席。傍聴者なし。議事要旨のため録音の了解。配布資料の説明。

前回の振り返りについて、事務局より説明。前回は、全体スケジュール、取り組みの方向性等について議論した。主な意見は、市の考え方を理解してもらうことが重要、大きな方向性について市民の反応を見た方がよい、まず複合化等のパターンを示すことが重要というもの。重要なのはベースとなる考えである、お金がないこと、よりよい再編のイメージ等を市民に浸透させていく、無駄がない、工夫をしていること、多用途・多世代といったキーワードは心に残るといった意見が挙げられた。市民説明会は継続的に実施していくことが必要で、市民の理解が少しずつ進んでいくことで、施設の見直し等を納得してもらうことが大事。市民が一般的に利用する施設に絞って説明することが必要。新たに整備する施設についても、説明が必要であるという意見が挙げられた。

当初は意見募集ということで、短期・中期・長期の取り組みについて市民の意見を募集する予定であったが、時期についての例示はせず、基本的な部分に絞る予定である。

前回の意見を踏まえ、施設ごとの今後の方向性について、市民に身近な14の施設を大きく取り上げること、市民説明会もスライドを中心にわかりやすい説明を行っていくということを考えている。

委員長：

今日は市民アンケートについて議論いただきたい。

事務局：

ご意見募集は6月15日から7月17日を予定、2ページではこのままであると公共施設がどうなるかをイラストで示す。3ページでは4つの基本方針を確認し、公共施設の再編計画を急ぐ理由、建て替えや改修に要する費用に焦点を当てて説明している。このままでは建て替えや改修に要する費用だけでもなかなか難しいことなど。4ページから意見募集の対象となる内容。市の考え方として、経営的視点と新たな価値の創出の2つを軸にしてよりよい形をつくっていくというもの。5ページより公共施設のよりよいかたちについて、イメージを示している。多用途・多目的・多世代、民間にもサービス提供を担ってもらい、費用に見合ったサービスを提供していく、多世代が集まれる開かれた空間といったもの。6ページはそれらを実現するための考え方について。7ページはそうした考え方を落とし込んで、フロー図を示している。市民、事業者の人も参加した協力体制を実現していきたいということを記している。8ページからは施設機能毎の今後の方向性。これまでの考え方を反映した場合の将来イメージ、取り組みの方向性を示している。

市民アンケートについて。対象者は15～80歳未満の男女から無作為抽出した3千人。全部で14問。公共施設関連は8問。その質問項目は大きく4つの内容に分けている。添付の説明資料と対比しながら答えてもらう構成。一つ目は公共施設のよりよいかたちについて、二つ目は公共施設のあり方に関する市の考え方、三つ目は市民との連携について、四つ目は施設機能毎の今後の方向性という構成。自由記述欄を設け、市民の意見も集めたい。問9からは回答者の属性となっている。

市民説明会について、6月24日から10回実施する。6月1日の広報紙で知らせる。説明内容は同じなので、日時と場所の都合がよいところに参加していただく。

委員長：

今日は、市民アンケート等の資料について意見をいただき、さらにブラッシュアップしていきたい。

そもそもアンケートの目的は何か。私は2つあると思っている。まずは市の公共施設や財政状況を知ってもらう。次に、市はすでに考えているということを示して、それに対して意見をもらう。特に前段の、切迫した状況を知ってもらうことは重要かと。

それを考えると、資料2は細かすぎる。頭出しを変えてほしいが、そうでなくても内容を簡単に抜粋したものを冒頭につけてもらいたい。問題があって、市はそれに対して考えているということを示す。全体的に簡潔にしてもらいたい。個別施設毎の方向性は具体的に書く必要はない。

アンケート設問の間 6、施設機能毎の方向性の質問は簡単すぎる。自分に関係するところしか考えないので、何の施設に対して答えるのかを明確にしてほしい。

あまり細かいことを書くと読む人は少なくなるが、一方で、よく読む人には市はきちんと考えているということを示す。なお、この資料は今日の意見も踏まえて、変えていくもの。

私の意見だが、財政状況が厳しいという表現は、どう厳しいのかよくわからない。どのように言っていくのが良いのか、市民は危ないとは思っていないのではないか。この辺は序盤戦のポイント。もう一つの課題は、市にはいろいろな部署があって、役所の中でもタテ割りでやっている。3 ページのグラフからは 10 年後以降が大変なのだと読み取れるが、今からやらないといけないというところをどう伝えるか。

委員：

自分の周りは、財政が逼迫しているという説明に対して、なぜ何億も新しい施設に使うのかという意見が出ている。

委員：

現状は「逼迫」はしていないのでは。市のバランスシートでは評価額で 7 千億円くらいある。財政的に見れば問題ないが、赤字である。今後についてはどうなのか。

委員長：

2 ページのグラフは 40 年間のものなので、長すぎて切迫感がない。資料には 3 ページのグラフしかないが、これで市民がどう考えていくか。学校であれば 10 年後から相当大変。

委員：

人口の観点から見ると、「生産年齢人口」は減っているが、定義がおかしいのでは。18 歳までは高校生である。本来の意味からすると 18 歳から 70 歳くらいまでが生産年齢と言えるのではないだろうか。要は 65 歳～70 歳までの人にどう働いてもらうか。

委員長：

労働力については、統計区分を変えると大きく変わるが、こどもが今後減っていくことを踏まえた学校の考え方が必要。学校が一番のテーマになる。

委員：

9 ページ、学校の取り組みの方向性に反映している。

委員：

全体として、根本的なスタートが違うのではないか。今の統計の延長線上でいくと、これからはうまくいかない。これをきっかけにして、施設の考え方を今から一緒に考えましょうというのが基本ではないか。アンケートについても市はこう考えているが賛成か、反対か、そのようなものしかない。市民からすると行政でやって欲しいという話になる。

委員：

そうすると2ページの頭出しで、夢を語らないといけないのでは。

委員長：

夢は後ろで言っている。

委員：

夢を語る必要はないと思うが、まずは考えていくことをスタートすべき。

委員長：

表現は考えるが、施設を作ればよい、という長年の価値観を変えなくてはいけない。市民も考え始めるきっかけになればよい。

委員：

市民にとっては、高齢者がどうなるか、子育て、地域がどうなるか、それぞれの全体像が入っていないとわからない。

委員長：

それは別途、市で考えている。必要であれば、添付してもよい。町田市の施設の状況をどう認識して、どうするか考えてももらうきっかけである。4ページ・5ページのイメージは市民に示さないと意見や反応が出てこない。こういうものを示しながら、意見をもらっていく。

委員：

少なくとも財政は逼迫するだろうというのは事実。この委員会や意見募集では公共施設に絞って、みなさんとどうやって考えていくか、それに対してアイデアを出していく。単に困っているということだけでなく、市の立ち位置を明確にすべき。

委員長：

市民に建て替えや改修に要する費用が今後出せない、このまま何もしないでいると最後

は自分の首を絞めるという意識をもってもらう。時間の問題でもある。夢を語ってもよいが、現実も知ってもらう必要もある。今回は公共施設に絞っていく。

委員：

財政の課題があるとする、市税をどうやって増やすか。そのための再編もあるのでは。

事務局：

公共施設をこれを機に時代にあった新たなかたちにするだけでもっと魅力的な施設にすることにより、収入増や人口増に寄与できることもある。公共施設という枠組みで考えていくが、それぞれの分野の計画に沿ったかたちでも個々の公共施設を考えていく。

委員長：

話は戻るが、とにかくわかりやすい説明にしてもらいたい。財政逼迫するので、このままでは難しい、だから公共施設の新しいかたちを考えていくといったことを最初に頭出ししてほしい。

委員：

目的はアンケートを通じて市民に現状を認識してもらうこと、また市民の意見を聞いてみるということだと思う。そのような観点から見るとわかりにくく書かれている。

アンケートについて、現状についての市民の認識がどうか、市の方針について市民はどう考えるか、進め方についてどのようなものが有効か、最後に市民のアイデアを募集するという4つのパートに分けると見やすいのではないか。

現状認識の設問について、財政が将来厳しい状況となることを知っていましたか、といったような具体的な設問に。

方針については、大きな方針と個別の方針。個別の方針の設問、問6については改善の余地があるという意見は最もだと。大きな方針について、3つぐらい挙げたほうがよい。問3の方針以外にも、公民連携について、総量を圧縮する考え方についても聞いてもよいのではないか。長寿命化という方針もあるが、反対する人はあまりいない。

進め方については、問5、7が該当すると思うが、一つにまとめられてもよいのでは。問4も類似している。

市民のアイデア募集は問2であると思うが、もう少しアンケートを整理すると、参考資料のパンフレットも市民にわかりやすいものとなる。

事務局：

基本計画策定時もアンケートを実施している。その中で官民連携等の手法については聞いている。

委員：

どこがポイントか。肝を明確にしてほしい。

事務局

基本計画で既に方針として総量圧縮、官民連携等を定めている。なので、今回は、その方針の是非を聞くのではなく、その方針に沿った具体的な実現のイメージについて聞いていきたい。問3、4が重要である。

委員：

それは過去に聞いていないのか。

委員長：

基本計画を知っている市民は少ない。問3～5では、総量圧縮の方針を出しているという前提を改めて述べてもよいのでは。基本計画を説明しながら質問する。問5は官民連携のことだと思うが、当たり前的手法を聞いている。もう少し踏み込んでもよい。選択肢の1、2は同じではないのか。

事務局：

1は対話など双方向の場合、2は例えば横浜市のような民間提案制度の窓口を設けるように相手側からのアクションに対する姿勢、3は逆に市からの情報やアクションを求めるか、という意味である。

委員長：

官民連携で真剣にやりたい人がどれぐらいいるのかというのを把握することも必要。例えばワークショップは手間がかかるが参加するのか、窓口を設置するとアイデア募集は出すのか。

委員：

アンケートの目的がはっきりしないのでは。どういう結果を求めたいのか。すでにいろいろな計画やプロセスがあって、公共施設という立ち位置の中で、何を聞きたいのかを明確にしないといけない。このアンケートを有効に使うためには、市としてはこういう検討、認識の下で、ここの部分が不明確なので、こういうことを聞きたいという形式にしないといけない。これまでの動きを市民は認識していない。

委員：

アンケートは説明会に来場した後だと、説明を受けてのものになるので答えやすいのでは。アンケートの導入部が大事であって、マイナスのイメージではなく、市民が将来を見据えたプラスの意識を持ってもらうための下地づくりに力を入れる必要がある。アンケートの募集期間は6月15日からだが、今回の意見を踏まえた修正はどうか。

委員長：

本日の意見を踏まえて、事前に委員に見てもらう。また、説明会は2時間あるが、最後の30分はアンケートの回答時間に充てるのはどうか

委員：

市民アンケートの対象が3千人というのは適正なのか。

委員長：

市の人口規模からは統計上3千人は十分。

委員：

わかりやすくしてほしい。

委員長：

もう少し説明文を増やして、説明する。

委員：

問5の文、行政を「市役所」と言っている言葉づかいが気になる。「市役所」というと職員ではなく、建物のことを想像してしまう。

委員長：

問2はあまり意味がない。資料の順番と設問の順番を整理する。

委員：

問14を聞く意味は？

事務局：

公共施設をよく利用している人としていない人の違いを確認したい。

委員：

市役所や学校などいろいろな施設があるため、どのようにデータを使うのか難しい。

委員長：

14 施設を列挙して丸をつけたらどうか。違う施設を比較することになる。3 つほど選択してもらえばよい。

委員：

こんなに細かく分ける必要はあるか。

事務局：

普段公共施設を使っている人と使っていない人での違いを把握したい。

委員：

公共施設全体か、特定の施設について聞いているのか。整理するときに難しい。

委員長：

事務局で再度見直し、修正する。資料4について説明を。

事務局：

短期再編プログラムの策定の概要について。5 年計画も含んだものとなる。建物が廃止・民間移譲・再編されるもの、サービスを見直すもの、中期の再編に向けて検討を行うものが対象となる。

短期で取り組むとしたとき、実施体制、手法、合意形成、効果額、スケジュール等を整理する。策定体制は、事務局をメインとして財政課、経営改革室と組みながら、学校と市民部を中心に協力していく。また、跡地活用を検討する部署とも連携する。縦割りでできるものではないので、プロジェクトを組んで部門横断的に取り組んでいく。8 月の委員会で短期プログラムの第 1 案、11 月には短期再編プログラム案を含むご意見募集案の確定、2 月に最終的な案を策定する予定。

委員長：

庁内で短期のプログラムを策定するということか。市民の意見募集はアンケートかパブリックコメントか。

事務局：

アンケートではなく、パブリックコメント。

委員：

対象施設のピックアップはどのように行うのか。

事務局：

昨年度の案の中で、短期に取り組むとしたもの。

委員：

短期・中期・長期に分けないということではなかったか。

委員長：

分けないのではなく、今回のアンケートではその部分までは市民には聞かないということであった。今後、庁内で膨大な作業が必要となるのではないか。

事務局：

8月の委員会までにどこまで出せるかは調整していく。全体的にはもう少し時間がかかる可能性もある

委員：

対象者に外国人も含まれるということだが、割と難しい日本語である。もっと簡素なものにするのか。返ってこなくてもよいという考えか。

委員長：

住民票がある外国人なので、ある程度の日本語はわかる、または配偶者など周りに日本語の分かる方がいる場合もあるのではないか。

委員：

回収率についてはどう考えているのか。

委員長：

前は4割程度。自分に関わりのある人は答えてくれるのでは。

委員：

公共施設の再編にあたって地域特性は踏まえるのか。

委員：

地域特性はあらかじめある程度はわかっている。それとどう整合性をとっていくか。アンケートだけから地域特性を導くのは難しいのでは。

委員長

市民合意を形成していくためには、段階を踏んで行く。苦労はすると思うが、やらないといけない。

事務局：

委員からのご意見については次回以降お答えしたい。次回は 8 月 22 日の 15 時から 17 時に開催する。

閉会

以上、委員会議事要旨において内容の相違・不足等がありましたら、8 月 22 日（火）第 6 回委員会までに事務局へお申し付けください。

政策経営部 企画政策課 大竹・榎本・田中・野田

TEL 042-724-2103

MAIL [m2ri@city.machida.tokyo.jp](mailto:m2ri@city.machida.tokyo.jp)